



〔2019年3月7日発行 会報第964号〕

今週のプログラム

(2019年 3月 7日 第964回例会)

卓話：「グルメのお話」

担当：岸上 和典会員

次週のプログラム

(2019年 3月14日 第965回例会)

卓話：「業界大激震！」

担当：木下 健治会員

〔第963回例会 (2019年2月28日) の記録〕

<会長の時間>

藤田 芳浩会長

皆様 こんにちは、お元気ですか！先週例会の黒川 彰夫会員の卓話「パワーハラスメントを考える」については、多くの会員が興味を持たれたように感じました。卓話を聞かれた後に非常に参考になった、あるいは同じような事が身近にあったとお話しされる方々がおられました。まさに黒川 彰夫会員自身が体験された事柄を整理し勇気をもって皆様に発信されたからこそ多くの会員から感想や体験談のお話が出てきたと思います。ロータリーのクラブライフは、このような自分とは違う職業だからこそ発言できる様々な専門知識や体験談が自分の糧になることだと思います。以前の西本 詩子会員の「免疫細胞」のお話ではアニメにも同じような面白いものがありまして、キャラクター化したヒーローが免疫細胞として活躍します。相原 正雄会員の「盲腸線」のお話をご自身がお医者様ですので「盲腸って」体のお話かと思いましたが鉄道のお話でした。鉄道は、私も好きで先日もNHKで関東の私鉄（京成電鉄）でしたが面白く拝見しました。実現しなかった成田新幹線と絡んで幻の成田駅があるというお話でした。現在、新幹線以外では最高速度の時速160Kmで走行できるのは、実現しなかった新幹線の用地が有ったからだそうです。岸上 和典会員の海外旅行のお話では、いったい何ヶ国に旅行されているのか？その行動力に驚かされます。山本 雅之会員のバイクと車のお話では、昔からの資料の多さを感じ入ります。そして本日の山田 克子会員の「インディアンライフ」のお話と枚挙にいとまがありません。いつも感じるのですが卓話をされる会員の皆様のご努力には感服すると共に感謝を申し上げます。先日、会員の方々と少し時間をかけてお話する機会がありましたが、その時にもロータリーライフの醍醐味は、直接仕事上ではお会いできない方々と知り合うことが出来て、その専門的な知識や物の見方・理解の仕方に触れることがこの上ない幸せであるといった内容でした。私は今後もっと多くの方にお会いしたいのです。その為にはどう行動したら良いのか、様々な角度から考えてみたいと思います。さらに、Skypeのような有効な技術を駆使すれば、当日例会場には行く事ができない場所や遠隔地の方々とも同時体験が出来たりすると思いますので、今後は是非ともチャレンジしてみたいと思います。

＜お客様＞ なし

＜出席報告＞ 西本 明文出席担当

会員数（内出席免除会員1名） 20名
本日の出席者数 14名
（内出席免除会員1名 名誉会員0名）
本日の出席率 70%
前々回（2月14日）の修正出席率 80%

＜ロータリーソング＞ 全会員

♪日も風も星も♪

＜ピアノ演奏＞ 近藤 美里さん

1. 思い出の風景
2. 太陽がいっぱい
3. Moon River

＜幹事報告＞

水島 洋幹事

1. 春の RYLA セミナーの案内が参りましたので、
チラシを全会員のメールボックスに配布致しました。
参加青少年のご推薦及びロータリアンのご参加をよろしくお願ひ致します。

＜委員会報告＞

＊米山奨学会委員会

水本 徹カウンセラー

2月24日(日)2018学年度米山奨学生の終了式が開催され、
当クラブが1年間お世話をしました金 東河君が無事終了されました。
大和ハウス大阪本社への就職も決まられ、大阪市内に転居されますので
また、例会に顔を見せに来てほしく思います。

＊職業奉仕委員会

渡邊 了允委員長

伊勢移動例会への参加申し込みが本日までとなっておりますが、現在19名の参加です。
20名になりますように、ご協力をよろしくお願ひ致します。
また、1人部屋をご希望の方は、お申し出くださる様、お願ひ致します。

＜ファインセッション＞

松田 親男副 SAA

皆様のご協力で¥15,469の例会場抛金が集まりました。

<SAA 報告>

山下 聰一郎 SAA 補助

※スマイルボックス

西本(明)会員 インフルはまだ流行している。

黒川会員 春 間近ですね。

山下会員 コメントなし

※ロータリー財団

藤田会員 花粉症の薬 今のところ効いています。

黒川会員 インディアン? それともネイティブアメリカン?

相原会員・山下会員 コメントなし

※米山記念奨学会

水本会員 24日金君 無事に終了式を迎えられました。

山田会員 卓話担当です。資料も内容もズタズタです。皆さん すみません。

黒川会員 山田さんのマイライフはどんなの?

木下(健)会員 2月はもう終わりですね。

山下会員 コメントなし

※ラオス基金

藤田会員 2月も終わりで 3月で一す。

黒川会員 ラオスに行きたいなあ～～！！

山下会員 コメントなし

※メイプル基金

西本(明)会員 まだ寒い日が続きます。

水島会員 山田会員 卓話よろしく。

藤田会員 山田克子会員 卓話楽しみです！！

黒川会員 山田さん 楽しみにしています。

木下(健)会員 山田会員 卓話楽しみです。

山下会員 コメントなし

<卓話>

「インディアンライフ・アウトドアライフ・マイライフ」

山田 克子会員

アメリカインディアンの家庭に定期的に訪問して 30 年ほどになります。
皆様はアメリカインディアンと聞いて、どのようなイメージを持たれるでしょうか。
多くの人々がこんな風に彼らを感じているのではないのでしょうか。

それは大きな羽の冠の様なものを身に付けて、顔にはペイントを施し、弓矢を持って狩りをして獲った獲物を食べて生活し、西部劇で繰り広げられた映画の様に、悪者はインディアンで野蛮で首狩り族がいて、最後は白人との戦いに敗れてしまい、結局アメリカで先住民として最初に生まれ育って暮らしてきた土地を追いやられ、未来や発展が無いとされた人達は、動物が生きていくのも難しく、どうしようもない砂漠地帯や、寒い土地に強制移住させられました。コロンブスのアメリカ大陸発見により、ヨーロッパからの移民で白人社会となり、現在のアメリカに至ります。

インディアンが被っている大きな羽飾りをウオーボネットと呼びます。
カナダオリンピックの開会式でもアメリカインディアンの人々が白馬に乗ってインディアンの伝統衣装を身に付けてウオーボネットを被り、オリンピックの舞台を華やかに盛り上げました。
現在では和服を着る習慣が少なくなった日本人と同じで、彼らも普段着は私達と同じですが、催事や各行事、アメリカを代表する伝統や文化として国を挙げてのイベントにはウオーボネットの姿が象徴されるようになって参りました。

食事はインディアンの家庭で出されるものはとても美味しいです。
煮る、焼くが基本ですので、どちらかという、生でお造りやお肉を食する日本人の方が、ウィルス感染の心配があるかもしれません。

「打ち首獄門」は日本でも映画やドラマの時代劇で再現されているのですが、昔の彼らの「首狩り族」のイメージの方が面白おかしく、また野蛮なイメージが世間に広がったままになっている様に感じます。それはジョン・ウェインと共にアメリカという国の大地を世界中に有名にさせたインディアン=悪者の西部劇映画の大ヒットがインディアンのイメージを作り上げて一部の差別化の中で、今も変わらぬ悲しい思いを引きずっている人々がたくさんいます。

グランドキャニオン・モニュメントバレイ・セドナ・サンタフェは皆様もご存知のように本当に素晴らしい素敵な観光地です。今でこそ世界遺産と言われて世界各地から観光客を集客する場所になっています。でもそれらの場所は、昔はどうしようもない土地だったのです。
強制移住に選ばれた地域だったところさえ、今度は自然の素晴らしさに目を付け、時代を超えて結局彼らの住まいを脅かし、観光地を作り上げてしまいました。

それに屈せずアメリカインディアンの人々も、子孫の為にもアメリカ社会で生きていかなければなりません。賢い彼らは自然との調和、精神世界を含めて先祖からの教えや伝統に誇りとプライドを持って生きていくと感じさせられます。

あえて私はこの卓話ではインディアンと表現しています。

以前に、ラジオ出演させて頂きました時には

「申し訳ありません。我々の業界ではネイティブアメリカンという表現でおねがいします」とお願いされました。

そこで私はリスナーの方にお伝えしました。

—100人以上のネイティブアメリカンの友人に尋ねました—

「インディアンと呼ぶと不快？」

「ネイティブを付けないと失礼ですか？」

—するとこう答えました—

「いや、自分達はインディアンであることを誇りに思っているよ。

昔インディアンと決めておいて、今になってネイティブアメリカンに変えろと言うのかい。

でも呼ばれて一番嬉しいのは、ホピ族のゲイリーです、とかナホバ族のエルシーです、と紹介されるのが一番嬉しい」

私が主催するインディアン SHOW にはスピリチュアルとも表現される彼らの先祖からの伝統的な祈りと感謝の慣わしを体験しに、医師や大学教授、ヨガの先生や九星気学、易学の鑑定士の方々もよく来られます。皆様にご覧頂いているセージスティックは日本のお清めのお塩より効力があると言われていています。伊勢神宮の周辺のお店でも日本製が少し販売されていますが、アメリカインディアンの土地で採取されたものに効力が強く、乾燥地でしか育てにくい為、入手困難で予約待ちの方や同業者からの注文が多いです。

インディアンの友人は狼やコヨーテ、マウンテンライオンに遭遇するような場所での焚火やキャンプに連れて行ってくれます。馬やロバに乗るか、もしくは7~8時間歩いてしか行けないインディアンの友人を訪ねることで、こんな私でも大学生の方々にアメリカインディアンの家庭や日常を話すご依頼を頂戴できることも彼らのおかげだと思っています。

私にパワーを求めに来られるお客様もたくさんおられますが、自分を奮い立たせて、ご縁に感謝し笑顔で真っ直ぐ生きていきたいと思えます。

Go Native!

ヴィッキー KATSUKO

<編集後記・追加情報・ チョット一言・ライブラリー・ etc >



(文責：山田 克子)